

編集/コンビニの会事務局  
連絡先/〒452-0807 名古屋市西区歌里町147番地  
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人  
コンビニの会

定価/150円  
昭和54年8月1日第三種郵便物承認

第144号



友人の田んぼと電車。幅が狭い軽便鉄道の車輛が、れんげ草によく似合う

## れんげと一緒に

考現学採集者 佐宗 圭子

田んぼ一面のれんげ畑、という風景は今ではめずらしい。昭和40年代までは、愛知県の平野部でも電車の窓からピンク色のじゅうたんがよく見えた。当時こどもだった私は、田んぼのれんげは自然に生えているものと思っていた。しかし、実は秋に種を蒔いていると知ったのは最近のこと。

れんげなどマメ科の植物は、根粒菌という微生物と共生している。根粒菌は空気中のチッ素を固定することができるので、植物としては必要なチッ素を根粒菌から得たい。れんげは根粒菌のために根に粒状の安全なVIPルームを用意して、ひと手間かけたグルメな食べ物を渡すらしい。そして根粒菌には、せっせと気持ちよくチッ素の固定に励んでもらい、それが必要なだけ「横取り」させてもらう。根粒菌との共生により、マメ科の植物は、やせた土地でも育つのだそう。

チッ素の固定！小さな根粒菌は何と素晴らしい能力を持っているのだろう。空気中のチッ素は無限大にある！根粒菌と共生する、れんげを肥料にすれば化学肥料必要なし！

(次頁へ)

れんげによる米栽培に取り組む友人は「いや、そんなに簡単ではないよ。れんげの咲き具合でチッ素の量も違って、肥料が多すぎても栄養過多で稲の負担。何年やっても加減が難しい。それに、れんげをすき込んで発酵させる時に強烈な臭いがあるので、住宅地に近い田んぼでは苦情が来て無理やろね」と。

れんげの肥料だと茎もしっかり葉も青色が濃くて丈夫だから、ほとんど農薬は必要ない。というか、虫が米を食べてしまつて、ある程度は収量が減るのも仕方ないと友人は考えている。

れんげの種蒔きから始まる田んぼには、かえるや虫、鳥など生き物がいっぱい、目に見えない微生物もたくさんいる。自然を利用して利益を得つつ、奪いすぎない知恵とでも言おうか。その結果、一緒に住まう生き物が多くなり、嬉しいこともまた増えるのだ。



稲刈り時には蜘蛛がわっさわさ

### 雑記 ごまめの歯ざしり

「ちやまぜが美味しい！」

東京の高校へ進学して、サッカーと勉強の両立を頑張っていた娘がこの春に、体調を崩し名古屋へ帰ってきた。一人暮らしをしながらの精一杯の生活だったので、本当によく頑張った！と家族だけでなく、周りの知り合いの方々にも温かく「おかえり」と迎えて頂いた。そしてそのタイミングで世界中がコロナ感染の危機となり、休校や様々な自粛の結果、毎日自宅で食事を大量に作り続ける日々を送っている。私は昔から料理は嫌いでもない。けれど毎日冷蔵庫にあるものを眺めて「何を作るか・・・」と頭を悩ます。しかも同じ味は飽きてくるし、作るのにも飽きる。そんな中何度も登場するのが定番中の定番のカレーである。

子供が小さい頃は作り分けるのも面倒で甘口を作っていたのだが、子供が成長するのに合わせ少しずつ辛さが増し、最近では中辛を作っていた。そこに、私に似たのか辛いものの好きな娘が帰ってきたことで、全体的に我が家の辛さレベルがまた少し上がり、辛口のルーを混ぜてみた。1回分作るのに4かけら入れるルーの内、1かけらを辛口にしただけだったが、息子に「のどの奥がヒリヒリする！」と言われてしまった。そこで4かけらのルーを甘口1、中辛2、辛口1等混ぜて作ってみた。単純に辛さだけなら中辛を4かけらと同じだが、これが色々なスパイスが混ざり合って、思いのほかとても美味しくなったのである！それからはメーカーや辛さの違うルーを混ぜ合わせて作っている。人だけでなくスパイスも、様々なものが混ざり合うと思いのほか素晴らしいものが出来上がるのだと、ちょっとした発見をした気分であった。

(会報委員 鈴木 奏子)

## 市江由紀子さんから 教わったこと

社会福祉法人ゆたか福祉会  
ライフサポートゆたか

所長 今治 信一郎

「市江由紀子さんが今日亡くなりました」

市江由紀子さんの悲報を聞いたのは年末、故郷に帰省中でした。コンビニハウス時代の同僚の着信表示を何年かぶりに見て「何かあったのかも・」と、胸さわぎがしたのを今でも覚えています。

コンビニハウスを退職後、市江由紀子さんとお会いする機会は殆どなくなってしまい

ました。しかし、以前住んでいた家が、市江さんがコンビニハウスの後に立ち上げた「ヘルパーステーション舞夢」の事務所の近くでしたので、前を通る時にお見掛けしたり、数回、妻や子どもがお邪魔させてもらった事がありました。舞夢の事務所には、子供たちが遊んでいたりと、近所の人がお茶していたりと、市江さんのやりたかった地域サロンが実現できてるんだと感じていました。

私と市江由紀子さんとの出会いは、コンビニハウスでした。コンビニハウスが立ち上がって、まだ1年もたっていない頃。コーディネート市江さんから利用者の情報を細かく教えてもらったのが最初だったように思います。

コンビニハウスに就職してからは、毎日の様に業務の報告や相談のやりとりをしていました。が、実は仕事以外で市江さんと差し話した記憶はありません。市江さんの存在は、職場では身近な存在でも、どこか、私自身無意識に身構えてしまっていました。それは市江さんが上司だからではなく、市江さんの生きる姿勢、コンビニハウスに真剣に向き合う姿勢に対して、どこか自分自身の覚悟の無さを肌で感じ、無意識に距離をとっていた様に思います。市江由紀子さんの自分の

市江由紀子さんの存在は、職場では身近な存在でも、どこか、私自身無意識に身構えてしまっていました。それは市江さんが上司だからではなく、市江さんの生きる姿勢、コンビニハウスに真剣に向き合う姿勢に対して、どこか自分自身の覚悟の無さを肌で感じ、無意識に距離をとっていた様に思います。市江由紀子さんの自分の

信念にまっすぐ仕事に向き合う姿勢は、「自分もそうありたい」と憧れる存在でした。

コンビニハウスは24時間365日、障害のある方のSOSに応えていきたいという想いのもと、創設されました。当時は月中の一時支援や、ヘルパー制度がない時代でしたので、まさに「無から有」を作り出す大きな事業の挑戦でした。そしてもう一つの大きな挑戦が、理念でもある「利用者主体の支援」を行うという事です。だから「介助の質」にはとことんこだわったように思います。

市江さんが言っていた「私は日々、他人に介助をしてもらう中で生活している。だから

こそ、介助の質に拘らざるを得ない。介助者の勝手な押し付けではなく、いつも私の必要に敏感である、そんな介助を受けたいと思う。」という言葉。ヘルパー制度のない時代

から100人ものボランティアを集め、地域での自立生活を創り上げてきた市江さんだからこそ、発せられる言葉の重みでした。

それまで、長年に渡り「事業所」や「職員」の都合で作られてき福祉施策に対して、そうではない本当の意味での「利用者主体」の支援をしたいと始めたコンビニハウス。事業理念の中に市江さんの強い想いが込められているのを感じました。

介助者である私たちにとってその言葉は「実践するのは本当に難しい・自分に出来るだろうか・・・？」と不安な気持ちを持ち

ましたが、市江さんの言葉は「それがやりたかったからこそ、ここ（コンビニハウス）にいるんでしょ？」と私たち職員の背中をそつと押してくれるような言葉でした。

また、ある時、私がある重度身体障害者と平日の宿泊利用の際、障害当事者の「夜遊びしたい！」の言葉に榮に出かけた事がありました。結局、帰ってきたのは23時になってしまい、入浴をして寝たのは1時前。次の日は案の定、通所施設で居眠りしていたそうで、

通所施設から「夜遊びしないで欲しい」とクレームが入った事がありました。

しかし、そのクレームに対して「今時の若者なら夜遊びするのは普通！クレームを言ってくるのがおかしい！」と市江さんが擁護して下さった事がありました。そこには、

「障害者＝夜遊びしない」「障害者＝お酒飲まない」ではなく、私たちの仕事は普通の人が経験している事を支援する。経験した上でどうするかは本人が決めること。そんな事も市江さんは大事にしていたように思います。

市江さんは利用者目線の意見をいつも私たちに投げかけてくれました（決して押し付

ける事はありませんでした）。また、徹底し

て障害の重い当事者の側に立ち続け発信してくれました。私たち職員は、市江さんの投げかけに対し「何が今出来るだろう・…」と

考え悩みました。悩んで悩んで悩み続けますが、市江さんの投げかけに応えていく事が、結果的には、利用者、家族の笑顔を生み出し、そして、私たち職員のやりがいにつながってきました。

今、考えてみると市江さんの存在自体が社会的な存在であつた様に思います。

市江さんの「障害があると確かに出来ない事が多い。でも障害があるからこそ与えられ

るものもある」の言葉。私たち職員も、市江

さんの想いを、市江さんに代わって形にしていく中で、仕事のやりがいや、利用者の力や可能性、そして自分の人生を決定づけるような経験の機会を与えられたように思います。

今も市江さんは私の憧れであり、緊張する存在です。しかし、私の人生において市江さんと一緒に活動できた事は一生の誇りです。



コンビニハウス時代の今治さん



令和2年2月22日 全職員研修

## ～動作法について～

2月の研修の午後の部は、愛知淑徳大学  
二宮 昭教授を講師に招き「動作法による支  
援と発達援助」をテーマに研修を行いました。  
二宮教授のご紹介と職員の感想をご覧ください。

通所部 W-L 施設長 伊藤 篤志

### ■ 二宮教授の紹介 ■

先生は愛知淑徳大学文学部教育学科の教授で、特別支援教育、発達臨床心理学が専門です。日本特殊教育学会監事や日本リハビリテーション心理学会理事を歴任され、また各地域で障害のある方々の動作法訓練会を主催してみえます。

二宮先生との出会いは、名古屋特別支援学校に教頭として赴任した時、訓練をもう少し充実させてくた愛知淑徳大学にお願いに

伺ったことが始まりでした。学校では親・本人そして先生からの依頼を受け、二宮先生にアドバイスをいただき教員の力量アップにつながるシステムをつくりました。

私が今回、施設長を任された時、真っ先に二宮先生が頭に浮かびました。「障害のある方の身体を触る・触らせてもらう」難しい課題にアプローチするには動作法が必要だと考え、エゼルの職員に紹介したいと思ったからです。無理を承知でお願いに上がり、お忙しいところ来ていただけるようになりました。

### ■ 動作法との出会い ■

私の基礎になっている訓練法は、養護学校が義務制になった昭和54年にさかのぼります。右も左も分からない新任教員が、身体に障害のある生徒と向きあった時出会ったのが動作法でした。今回の二宮先生の講義で30数年ぶりに動作法を考えられた成瀬悟策教授の名前を聞き懐かしかったです。新任で名古屋養護学校（現在の名古屋特別支援学校）に配属されたころ一生懸命訓練法の勉強したことを思い出しました。「ボバース法」「ボイター法」など医療機関でのリハビリの

勉強もしました。教育として授業で使える訓練として成瀬悟策教授を中心に考えられた「心理リハビリテーション（現在の動作法）」を学び、生徒の実態に合わせていろいろな訓練を混ぜあわせて生徒の「養護・訓練」をしていたことを思い出しました。

実技の場面では仲間たちの身体に触れていたとき、身体の緊張が抜けていく姿を見て、職員の目が輝いていることに感動しました。職員が仲間たちの身体にどのように触れたらいいか？どんな勉強をしたらいいのか？など今まで接することがなかった内容に対してとても興味があることが分かりました。その後、二宮先生に今後のエゼル福祉会のあり方について相談しました。私はエゼルの職員が身体に触れる知識を持ち、身体に着目した施設になってほしいと思っていることを話し、二宮先生から協力の承諾をもらいました。今後、親の会やエゼル福祉会として訓練会などを開催することも考えていきたいと思っています。



## 動作法って何？

1960年代から成瀬悟策先生が開発した脳性麻痺のこどもの動作の改善から始まった訓練法。トレーナー（セラピスト）とのやり取りの中で動作課題を実践することで体の緊張を緩める。心理学と実践の融合から様々な障害にも応用されて自分自身の身体をコントロールすることで緊張した心を緩めることができる。

## 相談支援専門員 寺澤 慶英

動作法の二宮教授の話は非常に興味深く、納得できる内容でした。からだ、こころ、やりとりという言葉からも、技術的なこともさ



実技の前に座学で動作法を知る

ることながら、まずはやりとりをすること、相手の方と向き合い、こころが動くことで、できないと思われることもできるようになる。このことは、どんな場面であっても、対人援助においては重要なことであると思います。信頼関係が深まればなおのこと自分自身も体を動かす時に、イメージを作ったりすることで効果が増しているという実感をもっており、これを相手とのやりとりで互いに作り本人の力をひきだしていくという動作法は、もう少し学んでみたいと思いました。

## 生活支援部 木村 恵利加

私は、グループホームを担当しており、入居している障害のある方にストレッチを行っています。障害のある方は、体を触られるのが苦手で、ストレッチに対して「嫌だ」と拒否しつつも仕方なく付き合ってくれているように感じていました。

しかし、その原因は私たち介助者のアプローチ方法にあったのだと気付かされました。嫌なことでも、その方が今の生活を続け

る為に大切なことなんだと、自分に、そして利用者さんにも言い聞かせるように続けてきました。が、尖足や拘縮などネガティブな面ばかりに焦点を合わせて、介助者の一方的なアプローチになっていたのではないかと反省しました。

二宮先生の研修に参加し、どんな動きを継続し、改善したいか、そのためにどの部位に着目するかをもっと考えてみたいと感じました。今回はまだ動作法の入り口を見せていただいたに過ぎないと思うので、さらなる学びや実践を通して、利用者さんの変化を見つけていきたいとわくわくしました。



利用者さんに施術している二宮先生

## 私がエゼル福祉会を

### 選んだ理由

通所部 大森 直子

私がエゼル福祉会を初めて知ったのは、4

年ほど前のことになります。その時に勤めていた通所施設へ「夏祭り」のご案内をいただき、WILLを会場として開催されていたその催しに参加させていただいたことがきっかけでした。

施設の前では数名のご婦人方がお菓子を販売されていて、ご利用者様のご家族かしら？と思いながら、その笑顔と活気に惹かれ、タルトやクッキーなどを購入したことを覚えています。

WILLは私の自宅からも自転車で10分

程度と近い場所にありました。仕事と子育ての両立のために自宅からより近い職場に興味のあった私は、その時からエゼル福祉会が気になる存在となりましたが、転職まで考えることはなく、以前の職場で2年3年と忙しくも充実した時間を過ごさせていただいていました。

転職のきっかけとなったのは、昨年の春の職場の移転です。自宅からますます遠くなってしまう、通勤を困難に感じていた時、エゼル福祉会のことを思い出してホームページを拝見したところ、ちょうど新施設の開所で職員を募集していることを知りました。

ただ、夏祭りで一度お邪魔してはいたものの、どういった事業所なのかは分からず、転

職にはまだ不安もあったため、ホームページに掲載されていた会報に、何か職場の雰囲気を感じる手がかりがないかと一読させていただくことにしました。

ある時期に職員が担当しているのであるう記事に、職員の離職や担い手不足による現場の混乱を赤裸々に綴った内容のものがいくつ掲載されていました。

社外の人も目にする会報に包み隠さず現場の混乱や職員の思い悩む姿を掲載していることに、正直驚きました。ですが、私はそのことに会の誠実さを感じたのです。そして、その混乱から前へ進もうとしている職員たちのひたむきさに、胸の奥をツンとつかれたような感じがしました。

若い職員が多そうだな。私の年齢でも大丈



夫かな。何より、私の中の「誠実さ」や「ひたむきさ」と感じているものは、彼らの中で通用するのかな。不安を全て拭い去れたわけではありませんでした、この時感じた思いに突き動かされ、転職を決意し応募するに至りました。

応募当時、職員を募集していたV O L Oは、生活全般において介助が必要な仲間が通う施設だったため、主に就労支援の経験しかなかった私は一から学ばせていただくつもりでパート職員として勤務を始めさせていただきました。

私の介助方法がわからないという不安はそのまま介助される仲間の不安につながっていると感じ、一日も早く介助技術を覚えたという思いはありながらも、仲間が「私

という存在に慣れるまでの時間を埋められないもどかしさに最初はとても戸惑いました。

考えていたよりも重度の障害を抱える仲間たちの気持ちは繊細で純粹で、そこにどう向き合っていくのか自分自身が試されているように感じることもありました。

でも、だからこそ、少しでも関係が前進した時は大きな喜びに感じられ、自分が障害福祉を仕事として選んだ原点を再確認できたように感じます。

そして、その現場には、会報で目にした通り、仲間のことで悩み、苦悩する誠実な職員たちがいました。私も共に悩み、考え、答えを出し前進していきたいと、半年が過ぎたころ、正規の職員を希望いたしました。

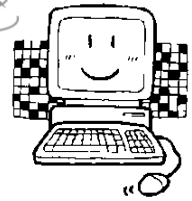
前職で製菓を担当していたこともあり、4月からW I L Lに異動し、6月からは正規職員として製菓を担当させていただけることになりました。私が会報を通じて、エゼルに對して抱いた印象、「誠実さ」と「ひたむきさ」を持って業務に取り組んでいきたいです。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



よろしくお願いします♪

## 事務局コーナー



「ご協力ありがとうございました」

3月～4月（敬称略・順不同）

★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※会報購読料1万円以上お振込みの方

朝比奈幸生 山上小枝子

水内喜久雄

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

厚生労働省

名古屋市障害者支援課

認定特定非営利活動法人

レスキューストックヤード

滝藤建設(株)

(株)カナミックネットワーク

特定非営利活動法人ボラみみより情報局

サクラオアシス

渡辺武司 榊原芳典 水谷由香

若松泰弘 上野知志 市江由紀子

(WILL・VOLO)

浅井宏紀 小出美穂

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

石原正寅 辻本道子 東原光江

黒田隆広 藤本菜見 石原まち

寺西 剛 鈴木千春 伊藤翔磨

松本浩希 村上梨央 森岡佳乃

岩崎桃佳 和田遥香 酒井まみ子

吉岡将吾 田邊利徳 茂手木利典

上野友志 田村淳仁 近藤友紀子

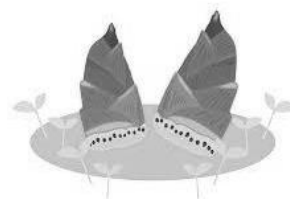
隅田 豊 磯村みづき

大脇美由紀 伊藤和代

住吉奈々美 堀井亜由美

★ 会報発送ボランティア

半田素子 丹羽正子 佐藤美紀子



《活動狀況》

3 月

3 日 理事会

4 日 歌里年次点検(施設電気設備)

5 日 選任解任委員会

6 日 名古屋市と建築について(伊藤)

12 日 事務局会議

16 日 コロナ感染対策会議(VOLO)

19 日 通所主任会議

19 日 事務局会議

20 日 WILL/VOLO 祝日開所 (陶芸)

24 日 会報発送

26 日 通所親の会

26 日 防災会議(宇都宮・北原・久野・稲垣)

27 日 生活支援部主任会議



4 月

1 日 VOLO 入所式 (久保さん)

3 日 会報会議

6 日 製菓会議 (WILL)

7 日 軽作業会議 (WILL)

7 日 事務局会議

8 日 看護師会議

9.10 日 コロナ感染対策会議 (本部)

13 日 グループホーム会議

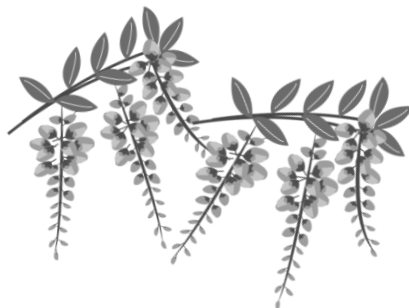
14 日 WILL 主任会議

16 日 VOLO 主任会議

20 日 事務局会議

23 日 通所親の会

29 日 WILL/VOLO 祝日開所



## 新型コロナウイルス感染症対策にかかる寄付へのお礼について

新型コロナウイルス感染症への対応につきまして、エゼル福祉会へのご理解ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。様々な方からご寄付をいただいております。

皆様からの温かいご支援、誠に感謝いたします。

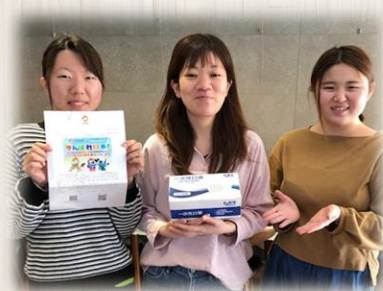
ご寄付いただきましたものにつきましては、利用者の方々への支援に有効活用させていただきます。

### 【 感染症対策にかかる寄付物品 】

- ・ マスク（不織布マスク、布マスク）・エタノール、手指の消毒液、ハンドジェル
- ・ 箱ティッシュ、トイレトペーパー・フェースシールド・次亜塩素酸水など

### 【 感染症対策にかかる寄付物品をいただいた方々 】 ※事務局コーナー再掲（敬称略・順不同）

- ・ 厚生労働省 ・ 名古屋市障害者支援課
- ・ 認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード ・ サクラオアシス
- ・ 滝藤建設株式会社 ・ 株式会社カナミックネットワーク
- ・ 特定非営利活動法人ボラみみより情報局 ・ 渡辺武司 ・ 小出美穂 ・ 市江由紀子



ありがとうございました

### 【 銀行口座 】

三菱UFJ銀行 小田井支店 店番 238（普）口座番号 1440108

特定非営利活動法人 コンビニの会

【 郵便振替口座 】 番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

〒452-0807 名古屋市西区歌里町 147 番地

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

U R L <http://ezeru.sakura.ne.jp/>

E-mail [convini@beach.ocn.ne.jp](mailto:convini@beach.ocn.ne.jp)



コンビニの会

理 事 宮川 優子